



TITLE:

教室通信・編集後記ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

教室通信・編集後記ほか. Cue 2002, 9: 55-55

ISSUE DATE:

2002-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/57835>

RIGHT:

cue

京都大学電気関係教室技術情報誌

NO.9

JUNE 2002

[第9号]

.....
巻頭言

四国電力 近藤耕三

.....
大学の研究・動向

電子物理学講座・プラズマ物性工学分野

システム情報論講座・画像情報システム分野

.....
産業界の技術動向

松下電工(株) 野村淳二

研究室紹介

平成13年度修士論文テーマ紹介

学生の声

教室通信

cue：きっかけ、合図、手掛かり、という意味
の他、研究の「究」（きわめる）を意味す
る。さらに KUEE（Kyoto University
Electrical Engineering）に通じる。

cue は京都大学電気教室百周年記念事業
の一環として発行されています。

教室通信

平成15年度の電気系2専攻（電気工学専攻と電子物性工学専攻）と附属イオン工学実験施設の桂移転に伴い、吉田キャンパスで学部教育、桂キャンパスで大学院教育が行われることになり、教官は両キャンパスの教育を掛け持ちしなければならなくなりました。これに伴って生じる最大の問題は吉田から桂に移動するのに1時間以上の時間をとられることです。桂キャンパスで研究指導やデスクッションを行い、研究室のスタッフ全員の意思疎通をはかるには、主として講義を担当する教授と学生実験を担当する比較的若い教官が、異なった曜日に吉田キャンパスに勤務することにより生じる不都合を解消しなければなりません。このため、研究室に所属する教官と大学院生・学部4回生一同に会する日を週少なくとも1日桂キャンパスに確保する必要があります。電気系2専攻では、次のような対策をとってこの不都合に対処しようとしています。

（1）学生実験の内容と時間割の変更

従来の週1.5日の2、3、4回生が履修する学生実験および研修を、2、3回生に履修させ週1日に圧縮します。しかし、この圧縮によって学部の実験教育が疎かになってはいけませんので、学生実験の内容はかなり変更し相当密度の濃いものになっています。また、これにより2、3回生の計約260名が同じ日に学生実験室に集合するため、部屋の確保も重要なことになってきます。

（2）研究室配属に必要な単位数の変更

「学部教育は吉田キャンパスで行う」が原則ですが、4回生の卒業研究を吉田キャンパスで行うことは事実上不可能であり、桂キャンパスで実施します。このため、4回生で受講する科目が多いと、殆ど毎日学生は吉田キャンパスで受講した後、桂キャンパスに移動しなければなりません。講義の時間帯や移動時間の長さを考慮しますと、4回生が桂キャンパスに出向きにくいという不都合が生じます。これに対処するには、学部学生は4回生で受講する科目の数を減らし、できるかぎり1、2、3回生までの科目で卒業単位数に近い単位数を取得しておくことが望ましいことになります。このことから、4回生の研究室配属に必要な取得単位数は従来103単位でしたが、これを115単位に引き上げました。

以上は移転に伴って生ずる不都合を克服する時間割やカリキュラム上の工夫を検討した主な点ですが、先生方ができるだけ満足の行く時間割をつくる作業にも取り掛かっています。この他にも予期しない不都合が生じることもあると思われますが、そのときは電気系構成員全員で知恵を出し合って、一步一步それを乗り越えていかねばなりません。教官には桂キャンパスにおける大学院教育を充実させ高度な研究を遂行する使命があります。一方で、教官は吉田キャンパスにおける学部教育という義務を負います。これを両立させることが教官層のこれからの責務であります。（奥村浩士）

編集後記

「cue」第9号をお届けいたします。巻頭言や産業界の技術動向など興味深い記事をお寄せいただきましてありがとうございます。電気系教室の研究や教育活動をお知らせするとともに、実社会で活躍されている方々のご意見やご研究内容を参考にさせていただければ幸いです。今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。（N. K. 記）

発 行 日：平成14年 6 月

編 集：電気電子広報委員会

石川 順三、吉田 進、引原 隆士、
木本 恒暢、尾上 孝雄、八坂 保能、
垣本 直人

京都大学工学部電気系教室内

E-mail: cue@kuee.kyoto-u.ac.jp

発 行：電気電子広報委員会，
洛友会京都大学電気百周年
記念事業実行委員会

印刷・製本：株式会社 田中プリント